

車体、足まわりのねらいは、

サーキットにおける操縦性を追求した車体パッケージング

RR-Rでは、サーキットにおいてねらいとする操縦特性を実現するために、完成車パッケージングとして以下の諸元を与えました。

加減速時の車体安定感向上のためにホイールベースを1,455mm、出力を効率的に路面に伝えるためスイングアーム長を622.7mmにそれぞれ設定。併せてエンジン前後長短縮により、車体の過度なピッチングを抑制できる車体重心位置を設定しました。エンジンクランク搭載位置は、従来のモデルに対し前輪アクスルからの距離を33mm後方に、グラウンドラインからの距離を16mm高く設定しました。これらにより乗車状態での前輪後輪分担荷重を50:50にアジャストし、かつサーキット走行における十分なバンク角も確保しています。

また、キャスター角を $24^{\circ}00'$ 、トレールを102mmに設定、従来のCBR1000RRに対しキャスター／トレール量を増やし、よりセルフステアが働きやすくすることで安定性を向上させました。

■ディメンション

